

# 平成30年度全国学力・学習状況調査

## <長与町の結果の概要>

### I 調査の概要

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 実施対象

原則として、町内小・中学校の以下の全児童生徒を対象とする。

- 小学校調査…小学校第6学年
- 中学校調査…中学校第3学年

#### 3 調査内容

##### (1) 教科に関する調査 … 国語、算数・数学、理科

A問題：主として「知識」に関する問題	B問題：主として「活用」に関する問題
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題

##### (2) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

#### 4 調査期日 平成30年4月17日(火)

#### 5 調査実施校数及び児童生徒数

(1) 実施校数 8校(調査対象者の在籍する学校の総数 8校)  
(小学校：5校、中学校：3校)

##### (2) 参加児童生徒数

- 小学校6年生 383人
- 中学校3年生 429人

## Ⅱ 結果の概要

### 1 教科に関する調査

#### 【町全体（小・中学校）平均正答率】

	小学校				中学校			
	長与町	長崎県	全国	全国との差	長与町	長崎県	全国	全国との差
国語 A	76	69	71	+5	80	75	76	+4
国語 B	62	54	55	+7	64	60	61	+3
算数・数学A	69	62	64	+5	76	65	66	+10
算数・数学B	60	50	52	+8	55	45	47	+8
理科	66	60	60	+6	72	66	66	+6

### 2 質問紙調査

#### 【自己肯定感、道徳性】

	調査項目		小学校			中学校		
			H30	全国との差	H29	H30	全国との差	H29
1	自分には、よいところがある	長与町	88.0	+ 4.0	84.5	87.8	+ 9.0	79.1
		長崎県	85.5		79.4	81.5		71.9
		全国	84.0		77.9	78.8		70.7
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれている	長与町	89.8	+ 4.5	94.9	86.6	+ 4.4	88.7
		長崎県	85.6		86.8	84.1		83.0
		全国	85.3		86.0	82.2		80.4
3	いじめは、どんな理由があってもいけない	長与町	98.1	+ 1.3	98.5	97.2	+ 1.7	95.0
		長崎県	97.0		96.6	96.9		94.7
		全国	96.8		96.1	95.5		92.8
4	人の役に立つ人間になりたい	長与町	98.4	+ 3.2	97.2	97.9	+ 3.0	96.1
		長崎県	95.7		93.2	96.6		94.3
		全国	95.2		92.5	94.9		91.9

※「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の合計

#### 【学習習慣等】

	調査項目		小学校			中学校		
			H30	全国との差	H29	H30	全国との差	H29
5	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	長与町	75.7	+ 8.1	77.6	56.1	+ 4.0	46.9
		長崎県	67.5		64.7	52.3		51.5
		全国	67.6		64.5	52.1		51.5
6	家で、学校の授業の予習・復習をしている（H29は予習のみ）	長与町	69.9	+ 7.3	50.0	72.0	+ 16.8	31.1
		長崎県	58.5		37.8	57.3		28.7
		全国	62.6		41.0	55.2		31.7
7	授業以外に、普段（月～金）、1日当たり1時間以上（中学校は2時間以上）勉強をしている	長与町	77.8	+ 11.6	78.4	39.7	+ 3.3	43.1
		長崎県	67.2		66.3	31.1		30.0
		全国	66.2		64.4	36.4		35.4
8	授業以外に、普段（月～金）、1日当たり10分以上読書をしている	長与町	74.7	+ 8.5	81.6	47.2	- 6.3	49.2
		長崎県	64.9		63.1	57.0		53.1
		全国	66.2		63.3	53.5		51.4

※5・6は、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の合計

【規範意識、生活習慣】

	調査項目		小学校			中学校		
			H30	全国との差	H29	H30	全国との差	H29
9	学校のきまり（規則）を守っている	長与町	93.2	+ 3.7	96.1	96.3	+ 1.2	95.9
		長崎県	88.0		93.0	94.7		94.6
		全国	89.5		92.6	95.1		95.2
10	朝食を毎日食べている	長与町	95.8	+ 1.3	96.9	95.0	+ 3.1	96.1
		長崎県	94.3		95.4	94.1		94.8
		全国	94.5		95.4	91.9		93.2
11	家の人と学校での出来事について話をする	長与町	89.1	+ 8.6	87.1	76.6	+ 0.6	79.8
		長崎県	80.8		77.8	79.1		76.9
		全国	80.5		78.1	76.0		74.3

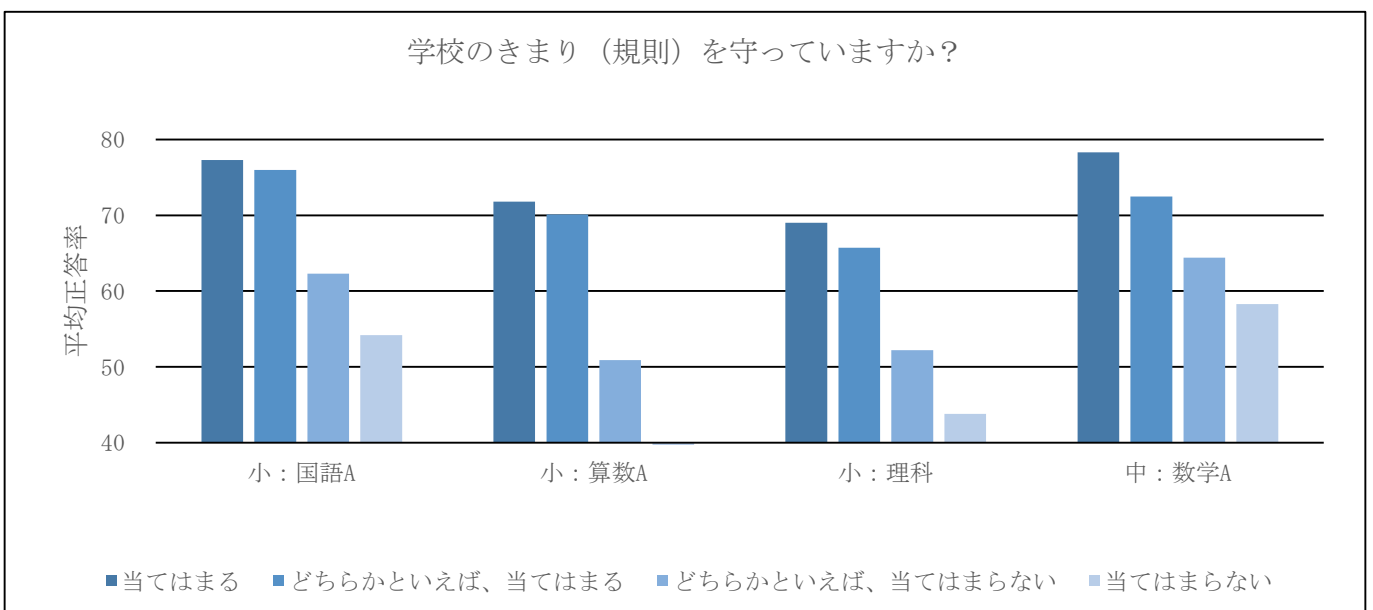
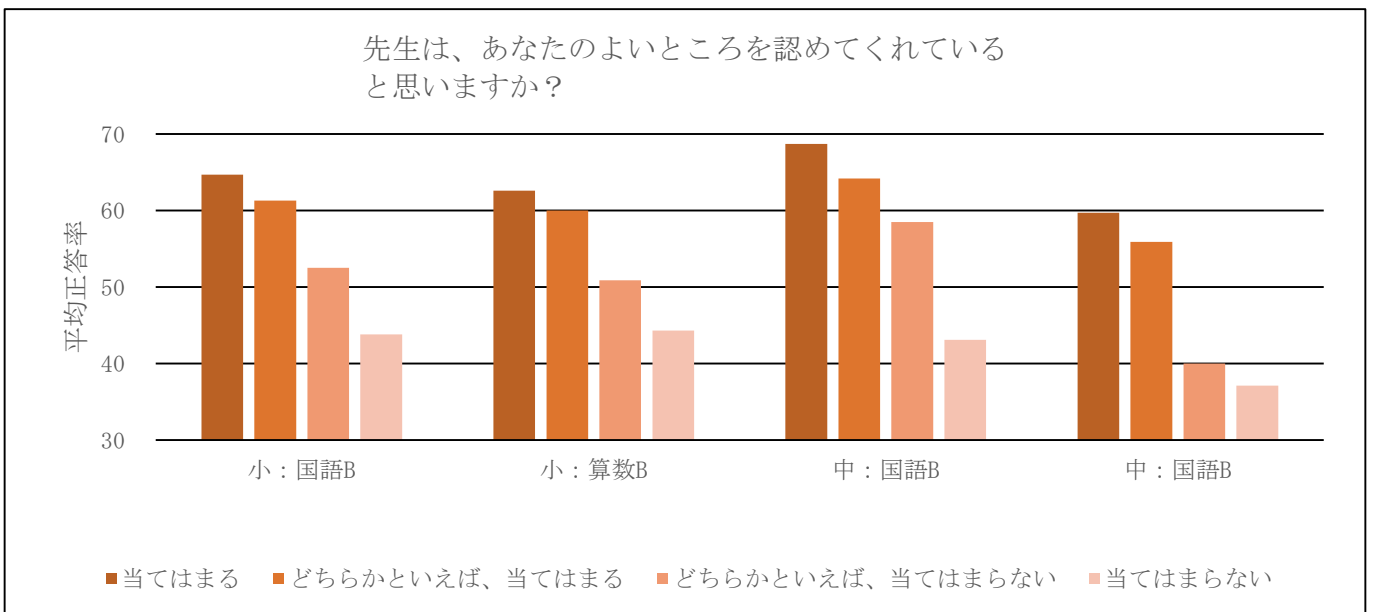
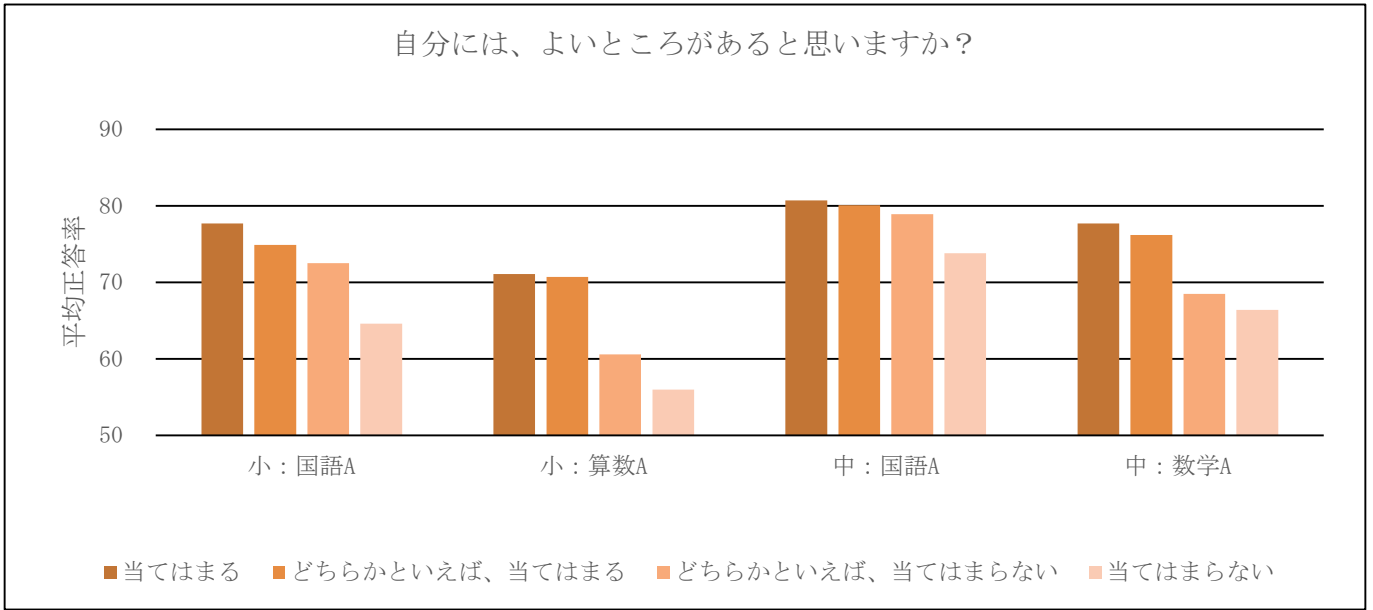
※「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の合計

【地域・社会との関係】

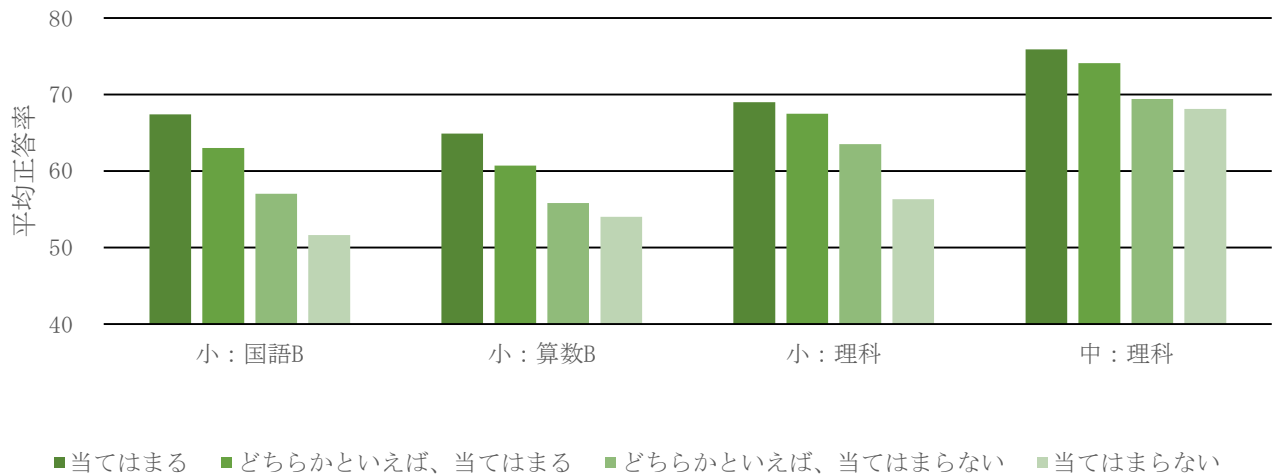
	調査項目		小学校			中学校		
			H30	全国との差	H29	H30	全国との差	H29
12	5年生（1、2年生）までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった	長与町	81.4	+ 7.0	83.0	87.9	+ 19.2	73.5
		長崎県	76.5		72.8	77.5		62.4
		全国	74.4		71.1	68.7		53.7
13	今住んでいる地域の行事に参加している	長与町	60.9	- 1.8	62.3	45.6	+ 0.0	37.6
		長崎県	64.8		64.8	49.6		45.7
		全国	62.7		62.6	45.6		42.1
14	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある	長与町	68.9	+ 5.1	68.1	59.4	+ 0.1	60.7
		長崎県	62.1		63.3	62.5		63.8
		全国	63.8		63.9	59.3		59.2
15	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	長与町	58.7	+ 8.8	43.6	37.4	- 1.3	29.8
		長崎県	48.0		40.4	39.8		35.0
		全国	49.9		42.3	38.7		33.4
16	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	長与町	65.8	+ 3.2	62.4	70.8	- 2.8	69.2
		長崎県	64.7		60.6	72.2		68.5
		全国	62.6		59.3	73.6		70.6
17	地域の大人に勉強やスポーツを覚えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある	長与町	47.2	+ 5.6	48.0	35.0	+ 9.5	27.5
		長崎県	44.4		43.8	28.4		24.8
		全国	41.6		41.1	25.5		23.6

※「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の合計

### 3 クロス集計（質問紙調査と教科に関する調査の関連）



地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか？



#### 4 結果の総括

(1) 教科に関する調査 (○：改善や定着が図られている傾向にある事項 ●：課題となる事項)

○ 町の平均正答率は、平成26年度以降、小・中学校全教科において全国・県の平均を上回っている。

##### 【小学校国語A】

- 全ての設問にて、全国・県の正答率を上回り、無解答率も低い。
- 慣用句「心を打たれる」の意味と使い方を選択する設問で正答率が高い (91.4%)。
- 主語と述語のつながりが合っていないものを見付け、文を書き直す設問で正答率が低い (46.7%)。
- 文章の中で漢字(熟語)を適切に使うことを見る設問で、正答率が低く、無解答率が高かった(例：「せつ極的」下線部と同じ漢字を「面せき」「成せき」「せき任」から選択する。正答率59.0%、無解答率6%)。

##### 【小学校国語B】

- 全ての設問にて、全国・県の正答率を上回り、記述式の無解答率も低い。
- 話し手の意図を捉え、自分の意見と比べるなどして、自分の考えを書く設問で、相手の意見を踏まえた記述となっていないため誤答となっている(正答率43.6%)。
- ある給食メニューのよさを伝える文章を書く設問で、取材したメモの内容を、十分に取り上げていないため誤答となっている(正答率16.7%)。

##### 【小学校算数A】

- ほとんどの設問にて、全国・県の正答率を上回っている。無解答率も低い。
- 180度より大きい角の大きさを求める設問で正答率が高い(97.7%)。
- 値が小数で示された文章題から除法の式を選択する設問において、小数の除法の意味を正しく理解できていないため誤答となっている(正答率49.3%)。
- 円周率を求める式を選択する設問で誤答が多い(正答率43.1%)。

##### 【小学校算数B】

- 全ての設問にて、全国・県の正答率を10ポイント近く上回っている。無解答率も低い。
- グラフの分析結果を示した2つのメモについて、それぞれがグラフのどのような点に着目して書かれたものかを説明する設問で、2つのメモ両方についての記述がなかったため、誤答となっている(正答率31.2%)。
- アンケートの結果をまとめた棒グラフと帯グラフから分かることを文章化する設問で、それぞれのグラフを関連付けてとらえていないため、誤答が多くなっている(正答率29.1%)。

### 【小学校理科】

- ほとんどの設問において、全国・県の正答率を上回り、無解答率も低い。
- 特に、科学的な概念や用語を答える設問の正答率が高い。(例:「関節」86.9%、「堆積」90.6%など。)
- 海水と水道水の区別を2つの実験結果を総合して考察する設問の正答率が高い(91.9%)。
- 大雨が降ったときの地面の削られ方について、実験結果をもとに考察したことを記述する設問において正答率が低い(25.4%)。
- 目的の時間帯だけ光電池に太陽光が当たる装置を作ることを目的とした場面において、太陽の一日の位置の変化をもとに考察する設問の正答率が低い(43.7%)。
- 食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験結果からわかることだけに限定した内容について記述する設問の正答率が低い(47.6%)。

### 【中学校国語A】

- ほとんどの設問で、全国・県の正答率を上回り、無解答率も低い。
- 漢字の書き取りについては、約8割の正答率であるが、1割前後の無解答がある(「束ねる(小4配当)」10.7%、「暮が上がる(小6配当)」5.4%、「許す(小5配当)」15.7%)。
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうかをみる設問で、正答率が低いものがあつた(「終始一貫」75.7%、「せきを切ったように話し始めた」27.1%、「折り合いをつける」65.2%、「ひとえに母のおかげ」72.7%)。
- 条件短作文の設問では、約7割が主語を明確にして書いていないために誤答になっている。

### 【中学校国語B】

- 全ての設問にて、全国・県の正答率を上回っている。特に、質問の意図を捉え、適切なものを選択する設問、話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することができるかどうかをみる設問では、約9割の正答率を達成している。
- 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことができるかどうかをみる設問で、正答率が低い(15.9%)。
- 相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く設問では、約4割が話の展開を適切に取り上げていないために誤答になっている。

### 【中学校数学A】

- 全ての設問にて、全国・県の正答率を上回っている。
- 対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ設問で、証明の必要性和意味を理解していないために、正答率が50%を下回っている。
- 歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ設問で、一次関数の意味を理解していないために誤答になっている(正答率51.3%)。
- 1枚の硬化を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ設問で、正答率が低い(55.0%)。

### 【中学校数学B】

- 全ての設問で、全国・県の正答率を上回っている。
- 計算や数学的事象を解釈し、数学的に説明する設問で、正答率が低い(25.9%、17.2%)。
- 与えられた情報から必要な情報を選択し、立式する小学校5年生における学習内容に関連する設問で、正答率が低い(18.4%)。

### 【中学校理科】

- 全ての設問で、全国・県の正答率を上回っている。
- 風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能についての設問で、東西の向きを誤っている解答が31.9%である(正答率37.8%)。
- 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる原因として、92.8%が「蒸散」をあげることができている一方で、73.2%が「土(鉢、皿)からの蒸発」をあげることができていない。

(2) 質問紙調査・クロス集計 (○：良い状況 ●：改善を要する状況)

**【自己肯定感、道徳性】**

- 教師は褒めて伸ばす指導を心掛け、児童生徒の自己肯定感も高い。
- 多くの児童生徒が、いじめはどんな理由あってもいけないと考えている。
- 多くの児童生徒が、人の役に立つ人間になりたいと考えている。
- 自己肯定感の高い児童生徒は平均正答率が高い。

**【学習習慣等】**

- 計画的に家庭学習（予習・復習）に取り組んでいる児童生徒が多い。
- 読書時間（1日当たり10分以上）が、全国・県がともに増加しているのに対し、長与町では減少傾向にある。

**【規範意識、生活習慣】**

- 規範意識が高い。規範意識が高い児童生徒ほど、平均正答率が高い。
- ほとんどの児童生徒が毎日、朝食を摂取している。
- 中学生になると、学校での出来事について、家族と話をすることが少なくなる。

**【地域・社会との関係】**

- 地域についての学習や地域の人々と触れ合う機会が多い。
- 地域や社会への関心が高い児童生徒ほど、平均正答率が高い。
- 地域行事に参加している児童生徒が多くない。
- 中学校で、社会参画の意識が低く、ボランティア活動への参加も全国・県の数値よりも低い。